

極秘

内閣情報部五。一〇

情報第二號

成都支那中央通信社報（五日）  
重慶報

（朝鮮總督府遞信局聽取）

昨日午後六時三十分日本空軍二十七機によつて演じられた無差別、無法極まる爆撃の結果支那の戦時首都重慶は昨夜文字通りの地獄と化し、西歴六四年七月ローマに起つたネロの大火を再現した。ジグザグの編隊で西北方より重慶を襲つた日本機は同時に数噸の炸烈・焼夷彈を一列に投下して地上に降るものすべてを破壊、炎上せしめた、程なく重慶の嘉陵江側八箇所に火災起り、九番目の火災が嘉陵江の北岸に起つた。重慶は地盤が固く従つて丘が多いので消防自動車は多数の火災現場へ到着し得なかつた、「燃える重慶」は「燃えるローマ」に匹敵し得たであらう、火災はそれが悲惨でさへなければ感嘆すべき光景であつたといへよう、一列、一列と重慶稠密區の家屋、商店、住宅は恐るべき集中爆撃の落下によつて焼け落ち或は壊れ崩れた、日本爆撃機群は市を斜めに掠め飛んだ時たゞ一回放弾したゞけであつたが、この一瞬は犠牲者といふ犠牲者の胸に忘れ難き憎悪を残した。被爆區の散館所を巡つた中央通信特派員は燃え熾る地獄、崩れた煉瓦、破れた硝子、壊れた電球、煉瓦の散亂した街路を見た、愛しい者を失つた者が泣き喚いてゐるのは彼等の身寄が崩壊物の下敷となつてゐる

るのであらう、人々は狂氣の如く肉親を求めてゐた、これらの狂氣と鮮かなコントラストをなしてゐたのは組織的に死者や負傷者を運び、發掘し、救出してゐた防空團と應急手當班の非常な冷靜さと、徹夜徹火を局地的に阻止せんご努力した消防隊の物凄さであつた。

重慶の人口は過剰で大部分の建物が引火性に富み、空襲避難所も不十分なので、被爆地帯の多数は生埋めになつた、或は火焰に包まれて焼死した、火熱が激甚で其の一例としてはドイツ領事館を圍繞する壁の下にあつた防空壕で、内部にゐた避難民約二十名が火熱のために惨死した、重慶は立派な組織を持つた應急手當班や擔架隊を有してゐるが、昨夜は被害地域が極めて廣く、犠牲者が多散であつたので非常に手不足であつた、犠牲者數の未だ正確な數字は判らない、公共、個人財産の損害額も不明である、重慶目貫の約十分の四が壊滅したといへば充分であらう。昨夜の巡視中、中央通信員は生き残つた者が崩壊物に埋もれてゐる家族の救出のため狂氣の如く防空團員の救ひを呼んでゐるのを聞いた、夜を徹しての衛生隊の活動にも拘らず、今日正午過ぎに至るも被爆地帯の附近で尙屍體が見えられてゐる、一人の男が彼を取巻く廢墟の眞唯中で嚴肅な面持で愛する者の屍體を毛布で靜に丁寧に包んでゐた。重慶中央通信社の附近に爆彈が命中し、四階建のビルディングを完全に粉碎して、無残にも社の給仕一名を殺し、社員二名に重傷を負はしめた、又其の附近に住んでゐた社員の一家族全部を生埋めにした。

國民保健局も完全に粉碎せられ、スマトラ華僑が寄附した病院自動車が半壞の傷ましい殘骸を局前に曝してゐた。

外國財産にも被害あり燒夷彈二箇と炸烈彈一箇がイギリス領事館に命中した、其の燒夷彈の一箇は不發だつたが、他の爆彈は雇人だまりを炎上せしめて六、七人を殺した、又燒夷彈一箇がフランス領事館の門の附近に落下し、炸烈彈一箇が庭園に落ちたが破裂しなかつた。燒夷彈 二箇と普通爆彈一箇合計三箇が佛人ジャンツェン司教の住宅内に投下された、この二弾は重慶の法王代である彼の住宅の隣内にある建物に命中した、この内には二百の避難民も奇蹟に死を免れた、しかし隣内の壁に沿ふ掩壕に避難してゐた二十人は爆彈一箇が壁の附近に落下して壁を吹き倒したとき生埋めとなつた。

重慶は昨夜水も電燈も食糧もなく、燒夷彈に因る巨大な焰が市を照してゐた、本日重慶人口百萬の半數が避難したと見られ、市の半分は無人となつてゐる、死者を最少限たらしめるため、市民の避難を容易にせんとして支那當局は、難民を市の近郊へ輸送するため大部分の自動車其の他を徵發した、市街は荒蕪たる光景で本日商店の殆んど全部は閉店してゐる。

孔祥熙行政院長は防火道路の開設に七十萬元を計上せるほか緊急救濟費として百萬元を計上した、一方當局は家なき難民に對し食糧、避難所の世話を續けてゐる。

無法な日本側の爆撃を社説で取上げ重慶の支那新聞は一様に、後方の罪なき支那市民を犠牲

にし日本軍は最近の軍事的敗退の徴譽をせんとしてゐるのであると述べてゐるが、かかる手段は侵入者に抵抗せんとする支那の決意を固めるに過ぎずと主張してゐる。「爆弾」で「戦争には勝てない」と之等は言明してゐる。

内閣情報部 一〇 情報第三號

重慶日本語放送（八日） （東京都市通信局聴取）

一、講演

中國の消耗戦、中國の今回の抗日戦は所謂消耗戦なるものを實行してゐるのでありまして中國は日本の財力、兵力及武器を消耗させて着々と勝利への道を辿つて居りますが中國兵士はよくこの消耗戦の意義を理解して效を收めて居ります。

ここにその面白い實例は中國軍は日本軍の彈丸を消耗させる目的で僅か二名の兵士に命じて暗黒の中から日本軍に發砲せしめました。或る日本軍は中國の大部隊と誤信して暗黒の中の三十分に亘つて機關銃の連續射撃をやりましたが無数の彈丸を消耗して結局得る所なく中國兵士二名共に何等の損害をも受けませんでした。

二、七日上海發陝西省南部に於きまして日本軍飛行機が墜せられました。中國軍の二十九師は日本軍偵察機一機が低空飛行中なるを認め之に集中射撃を行ひたる所、彈丸がガソリンタンクに命中し同機は火を發しましたので搭乗者はパラシュートで降下を試みましたが中國軍に捕へられました。

三、東京から香港に到着致しました一外國新聞記者の語るところに依りますと目下日本内地には反戦氣分横溢して居まして日本官憲はこれが取締に苦心してゐます。岡山縣、島取縣反戦分子の活躍は誠に盛んだそうです。四月十六日には××海軍工廠内の反戦分子が火藥庫に放火する等ありまして、これに對し軍部當局は手の施す術もない有様です。